

滋賀県立彦根工業高等学校

# 高齢者と共に活動

～モノづくり防災教育～

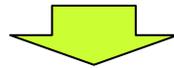


滋賀県立彦根工業高等学校  
都市工学科



# 目的

地域の防災対策の「質」を向上させるには  
災害要援護者対策への取り組みと充実が鍵となる



そこで、これまで私たちが積み上げてきた「かまどベンチづくり活動」を生徒や児童らが災害時要援護者等と共に行うなど、一連の防災交流活動を、行政等の協力や連携により実施し、これにより災害時要援護者の理解や防災に対して幅広く奥深い視野の育成に加え、相互(地域)の防災力を向上させる。



- ① 接触と交流
- ② 要援護者理解
- ③ 高齢者に学ぶ
- ④ 高齢者自身の防災活動
- ⑤ 行政等との連携

# 実施内容

- (1) 事前学習・計画準備・調整等
- (2) 講師を招いて交流学習会
- (3) かまどベンチ交流製作
- (4) 製作意見交換等
- (5) 炊き出し体験・意見交換等
- (6) 他の場所でのかまど製作の継続
- (7) 連携方策や既存成果の発展探求
- (8) 発表活動や成果物作成(活動の手引充実等)



※赤字が高齢者と共に活動する項目

# 事前学習

## 気象・自然災害学習 (彦根地方気象台)



気象予報等の現場見学

## 土砂災害の学習 (湖東土木事務所管内)



砂防ダムの施設や役割を学習

## かまどの研究 (県立琵琶湖博物館)



彦根市の民家に実在し、保存  
展示されているかまどを調査



気象観測・観測装置の学習



急傾斜地指定区域  
について現地学習



液状化現象の実験を体験、習得



急傾斜地での斜面  
調査体験を実施



彦根市は田畑が多く、山林が少ないため「薪」があまり確保できなかった。そのため「わら」を使うことが多く、熱効率をあげるため間口が狭い構造に工夫されていた。

# 災害時高齢者生活支援者学習①

(大津市で開催された本講習に代表生徒が参加、メンバー全員が学んだ方がいいと思い学校で実現)



防災知識の講義



毛布での担架づくり体験

災害が高  
齢者に及ぼ  
す影響や  
接する時の  
心遣いを学  
ぶ



車いすで段差を越える体験



担架での搬送体験

# 災害時高齢者生活支援者学習②



ホットタオルづくり



段ボールとビニール袋で足浴体験

避難所生活に焦点をあて、身近なもので出来る技術を学ぶ



風呂敷でのリュックづくり



毛布で防寒着(ガウンづくり)



# 交流学習会（邂逅の郷）

防災知識講習  
（地元の災害、普段の生活）

災害時高齢者生活支援講習  
（身近なものでの避難所生活）

防災学習を  
共にするなかで、コミュニ  
ケーションと高齢者  
の理解

タオルとビニール袋で  
ホットタオルづくり

交流での学習は  
「ふれあい」が基本

風呂敷を使った  
リュックサックづくり

# かまどベンチ交流製作（邂逅の郷）

交流開始（活動内  
容説明など）

80歳を超える年齢の方  
もコンクリート練り混ぜ

ベンチの高さは、洋式トイレ  
の高さ（約40cm）がいい

製作過程の  
なかで高齢  
者の理解、  
高齢者から  
知識・技術・  
知恵を学ぶ

高齢者の潜在能力を発揮して  
いただける防災活動である

レンガ積み（動作はゆっくりされているが、  
お年寄りの方の勤勉さ、ねばり強さ）

「次はいつ来てくれるの？」  
といった言葉の重み



# 薪づくり活動 (琵琶湖岸における薪の収集)

① 漂着流木の収集  
(湖岸清掃活動)



③ 薪(燃料)確保  
(経費節約)



④ 湖岸浸食  
(災害学習)

② 知恵の継承

高齢者から学んだ知恵、  
地域の特徴を活かして

活用



ひと味ちがう火  
のあたたかさ

生木でないた  
め燃えやすい

⑤ エコ学習  
(環境・資源・経済性)

# 完成交流（邂逅の郷）

入所者、職員の方、高校生、教師、  
地域の方、行政担当など参加

薪をうまく燃やす方法を  
教えてもらった



とにかくお年寄りの方  
に喜んでもらった

薪は台風や大雨の後、琵琶湖  
岸で収集・備蓄した知恵

かまど活用  
交流のなか  
で高齢者の  
理解、高齢  
者から学ぶ



手作りのかまどでつくった豚  
汁はとてもおいしかった

車いすの方も、「かまどを  
近くで見たい」といった動き

# 製作場所



③金剛寺町  
グラウンド

彦根工高

②極楽寺町  
ひだまり公園

⑥中荻南部  
みどり団地第1公園

④城陽小学校

①若葉小学校

⑦邂逅の郷

⑤中荻南部  
自治会館

 2009実施

 2010実施

## その他交流活動(城陽小との交流製作)



- ・かまどの必要性
- ・かまどの製作方法
- ・防災意識の高揚
- ・協力の大切さ

### 「私たち生徒が指導役」

交流相手が小学生ということで、ややとまどいがありました。

これまでの経験から「自信を持って活動できました。」



## その他交流活動(城陽小との交流製作)



### 「意識の高まり、そして共感」

- ・みんなの中に、また新しい絆がうまれた。
- ・何年も残り続けて、みんなの役に立てて、みんなで協力したい。
- ・災害が起こったときには、私たちが中心となって支えていきたい。
- ・楽しく活動できた。完成した喜びをみんなで味わえた。
- ・城陽子どもまつりで発表します。



# 地域交流(完成交流活動)

## 中荻南部自主防災会、自治会との完成交流会

自治会行事に併せて  
防災イベントを実施



起震車での  
地震体験



炊き出しを核として



防災用品の  
展示



参加者での食事

製作交流から活用交流へ

# 完成状況

## 【中藪南部自治会館横（1基）】



活動通算9基

## 【中藪町みどり団地第1公園（2基）】



通算11基

## 【邂逅の郷（2基）】



通算13基

## 【城陽小学校（2基）】



通算15基

# 今夏の猛暑の中での活動

「災害はどんな時に起こるかわからない」「暑くてもがんばろう」「これを食べてがんばろう」

製作中も「のぼり」をたてて、活動を周知すると、防災への啓発とした



テントで陰をつくるが、この夏の暑さは異常

完成

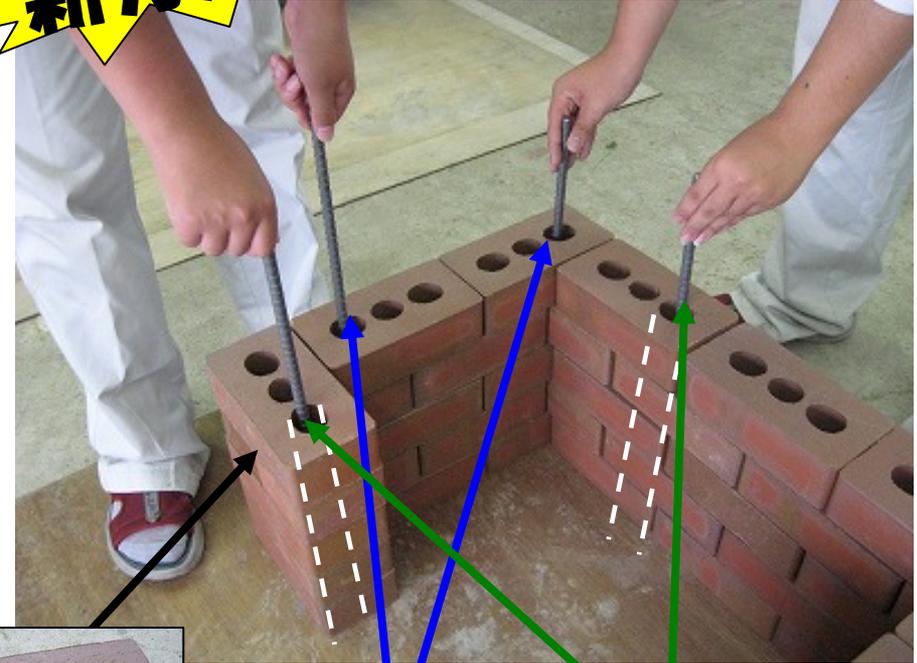


# 構造や製作方法の工夫・改良

新作



新方法



穴あきタイプのレンガ

鉄筋

モルタル充填

焚き口3口タイプ

(横幅：従来の1.5倍 焚き口を従来の2口から3口へ)

① 容易な施工

② 工期短縮

「熟練を要せず、だれでも、はやくできる」

# 穴あきレンガでの製作(城陽小学校)

①配置を考えレンガを組む



②レンガを組み上げ、鉄筋を差し込んでおく



③モルタルを穴に流し込む



結果

施工  
容易

時間  
短縮

を実現



⑥完成(養生させる)

⑤充填させたら上面や側面のモルタルを拭き取る

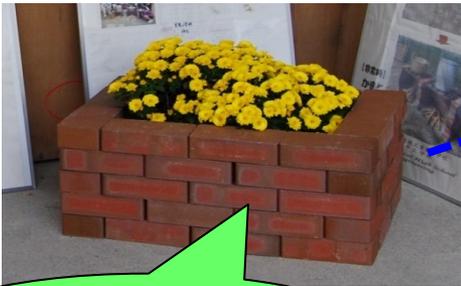


④突き棒などで充填させる



# 簡易的かまどベンチ(移動可能)

普段



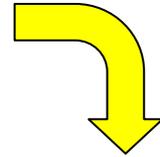
モルタルで固めていないので解体可能



- ・普段は花壇などにしておける
- ・最上段は笠タイプで見栄えも良好
- ・子どもからお年寄りまで扱える
- ・移動可能、大きさ自由

おもちゃのブロック感覚で

レンガを組んでいく



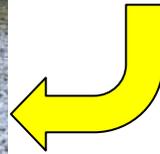
「あっという間に完成！」



1口型



2口型



ステンレスパイプの差し込みで一体化

(例: 普通マス30個、半マス5個)

(例: 普通マス77個、半マス16個)

# PTAとのコラボレーション

まさかのコラボ  
「備えあれば、  
とっても  
おいしい」  
(カレーライス)



炊き出しステーションの  
設営状況

PTA会長もレン  
ガ組みで活躍



生徒や来場者  
に啓発



放送部も  
校内放送  
やFMひこ  
ねで紹介



保護者と生徒

# 生徒発表活動等(普及継続活動)



近畿I高校土木教育研究会生徒発表  
平成22年7月26日 神戸市チサンホテルにて

## 【その他】

- ・H22.7.17 蒲生地区まちづくり協議会講演
- ・H22.7.27 滋賀県学校安全研修会講演、模型展示
- ・H22.8.4 西日本高校土木教育研究会発表
- ・H22.8.28,29 NHK防災パーク2010 模型展示
- ・H22.9.5 滋賀県総合防災訓練ブース発表.
- ・H22.9.11,13 きゃっするいと～ 模型展示
- ・H22.10.16,17 全国高等学校産業教育フェア発表
- ・H22.11.13 文化祭にて発表活動
- ・H23.1.14 長浜東ロータークラブ発表、展示など



ひこね防災フォーラム2010  
平成22年7月31日  
彦根市みずほ文化センターにて

# 総合防災訓練の学習とコーナー設置

## 平成22年度 滋賀県総合防災訓練



**とき** 平成22年9月5日(日) 07:00~12:30  
**ところ** 草津市・守山市・栗東市・野洲市

住居と消防団、防災関係機関など各機関と連携する訓練を実施します。  
 ・本県防災訓練、任意避難訓練 07:00～ 矢橋潟島はか  
 ・守山市地域防災総合訓練 07:00～ 守山南中学校  
 ・栗東市総合防災訓練 07:00～ 大栗東小学校ほか  
 ・野洲市総合防災訓練 07:00～ 北野小学校

**会場** 矢橋潟島多目的グラウンド  
 JR南草津駅西口から会場までシャトルバスを運行します。

【会場および周辺で行う訓練】  
 応急検閲訓練、DMAT訓練、応急搬送所設置運営訓練、住宅密集地山火火災時急訓練、倒壊建物救出訓練、林野火災火警訓練、土砂災害救出訓練、海上船舶事故救助、火災対応訓練、化学災害対応訓練、強化石油ガス漏洩応急訓練及び負傷者救出訓練、災害対応サイアレンセンター運営訓練、緊急用医薬品供給訓練、パルーンシエーター設置訓練

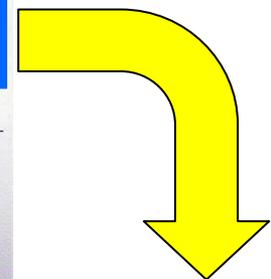
【各会場で行う訓練】  
 災害救助用車輦等の緊急引渡訓練（視庁ほか）、災害救助用備品貸出・貸渡訓練（各市訓練会場ほか）、多動機車輦・DMAT受入訓練（栗定命館災害病院）、大規模災害対応訓練（栗津総合病院）、電力網における水門閉鎖訓練（津田川内海山）、防災意識訓練（イオンモール草津）

### 主会場のご案内

【駐車場・交通案内】  
 ○訓練参加・観覧車両、招待者車両などについては必ず事前に指定された駐車場にしてください。  
 ○一般乗用車については大津駅までお越しになりますが、駐車場台数が少ないので、できるだけ南草津駅西口とのシャトルバスをご利用ください。  
 ○シャトルバスは南草津駅西口～会場間を30分ごとに運行します。

【場内案内】  
 ○多目的グラウンドおよびその周辺では車の往來が頻繁にありますので、十分ご注意ください。なお、入らば広場にはヘリポートとして使用するため立ち入りできません。  
 ○トイレは左側の広場にあり、その周辺の喫煙所はご遠慮ください。喫煙所はグラウンド南東側に設置しています。

【展示・体験・PRコーナー出展一覧】  
 ○多目的グラウンド内の展示、体験、PRコーナーでは下記の機関・企業・団体から出展されています。どうぞお立ち寄りください。  
 ・防災用機器販売店A1J・まいにち株式会社  
 ・川俣建設株式会社・株式会社NTTフコモ関西支社  
 ・関西電力株式会社滋賀支店  
 ・大沼ガス株式会社滋賀支店  
 ○西日本高速道路株式会社関西支社  
 ・立命館大学防災フロンティア研究センター  
 ・社団法人滋賀県建築士会・自主防災防犯研究会  
 ・NPO法人日本防災士会滋賀県支部  
 ・社団法人滋賀県工業界協会  
 ・財団法人滋賀県国際協会  
 ・日本赤十字社滋賀県支部  
 ・海上自衛隊舞鶴地方総監部  
 ・独立行政法人水資源機構琵琶湖開発総合管理所  
 ・滋賀県 防災関係機関、警察、消防、消防団、消防団、消防団、消防団  
 ・滋賀市 消防関係、消防団、消防団、消防団、消防団



- 西日本高速道路株式会社関西支社
- 立命館大学防災フロンティア研究センター
- 社団法人滋賀県建築士会
- 自主防災防犯研究会
- NPO法人日本防災士会滋賀県支部
- 社団法人滋賀県エルピーガス協会
- 財団法人滋賀県国際協会
- 滋賀県立彦根工業高校
- 日本赤十字社滋賀県支部
- 国土交通省近畿地方整備局
- 海上自衛隊舞鶴地方総監部
- 自衛隊滋賀地方協力本部
- 独立行政法人水資源機構琵琶湖開発総合管理所
- 湖南広域消防局
- 彦根地方気象台

滋賀県総合防災訓練  
パンフレットより

# その他活動



液状化等の実験練習と県青少年のための科学の祭典での実演



模型2号基の製作と展示



全国産業教育フェア(つくば)での発表

かまどベンチ新聞

「ものづくり」で交流を深める  
「防災かまどベンチ」は全国で注目！

物理的効果と心理的効果の  
両面で地域防災力を向上！

「活動の手引き」作成、そして発信！  
全国各地で普及展開 産工も継続活動

「防災教育チャレンジプラン」  
http://www.hosai-shuho.net/sha.html  
とダウンロードできます。

かまどベンチ製作は、ものづくりに特化した防災教育活動として効果を発揮します。詳しくは産工まで。

2010 防災教育チャレンジプラン 番号06  
彦根工業高等学校 都市工学科

10・16号

本誌はJICAの協賛で、防災教育チャレンジプランの認定（2006.2010）を受けて発行しています。

かまどベンチ新聞の発行

防災教育チャレンジプラン

一物多様プロジェクト

かまどベンチづくり  
～地域防災力向上のためのモノづくり活動～

活動の手引き  
2011改訂版



2011年2月  
滋賀県立彦根工業高等学校  
都市工学科

手引き書の改訂(活動編、製作編)

# 普及活動(活動サポート)①

【高島市】



(彦根工業高校把握分)

【大津市】



【彦根市】



【東近江市】能登川地区



【東近江市】蒲生地区



琵琶湖

【甲賀市】  
信楽地区



■ 既設ベンチ

■ 新設ベンチ

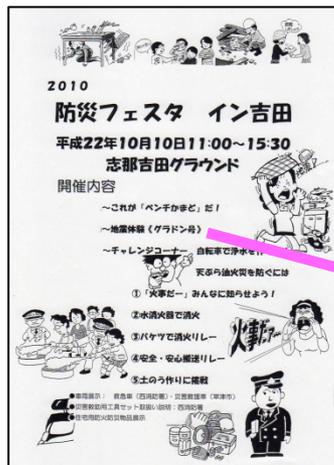
■ 既設ベンチ

■ 新設ベンチ

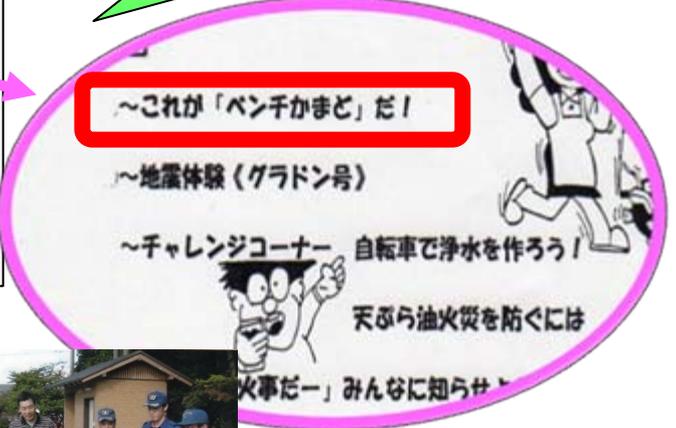
【大津市】

# 県内普及状況

蒲生地区まちづくり協議会



草津市での例  
(防災行事に組み入れ)



信楽社会福祉協議会と地域の連携



車いすの方の参加

## がまチョコ

がもうちまちまち協議会チョコニュース  
2010年11月20日発行 No.44  
発行所: 東近江市蒲生地区まちづくり協議会・広報部  
住所: 東近江市子川原町7-6 蒲生・蒲生支所内  
TEL/FAX 0748-55-3600

### 炊き出しかまど 蒲生寺町自治会 下麻生町・鈴区

ひだまり館では、地域の安全、安心のために色々な取り組みをしています。  
昨年までは「DIY出前講座」・「防災講座」の開催などを実施してまいりましたが、今年度は信楽自治会町に「炊き出しかまど」の製作を依頼しました。  
これは、信立県立工業高校都市工学科が「地域防災力向上のためのまちづくり活動」として取り組まれているものに賛同し、普段は「パンチ」・災害時には「かまど」に化身する「炊き出しかまど」を普及していきましょうというのです。  
「炊き出しかまど」づくりを普及させることにより自治会単位での防災力を高め、また、ものづくりを通して自治会個人との交流をはじめ、自治会内で防災意識の高揚を図ります。  
信楽の防災意識向上と地域防災力の向上に貢献することを目的として、今年度は3基分の製作を依頼したことが決定しました。ひだまり館では7月17日に自治会対象に本事業の説明会を実施し、信立工業高校の田中民生先生を招いて製作への取り組みなどを説明し、決定しました。  
また、3基分のモデル地区を募集しましたところ、各自会から御前が、蒲生寺町、下麻生町、鈴区の3自治会での取り組みが決定しました。蒲生寺町は9月1日(第1期工事)から着手され、9月4日(第2期工事)、9月15日(第3期工事)に完成し、10月18日(土)に信立工業高校の田中先生(指導・指導員)と自治会代表を招き、10月18日(土)に完成しました。次いで下麻生自治会では、10月16日(土) (第1期工事)から着手され、23・30日(第2・3期工事)で完成され、来る11月28日に炊き出し訓練を実施予定で、鈴区自治会では、10月31日(第1期工事)から着手し、12月5日(第2期工事)に完成予定、12月12日(第3期工事)に完成予定とされています。この事業につぎまして3自治会の協賛は、ご協賛とご協力をお願い申し上げます。今後「炊き出しかまど」を有効にご活用いただき、合わせてお役立ちいただきますようお願い申し上げます。  
※蒲生まち協会の「かまど製作」作業風景を掲載させていただきますのでご留意ください。 by ひだまり館

蒲生まち協会の会員は、蒲生地区に住んでいる一人ひとりみんなの会員です。



製作の様子



炊き出しの様子

# 普及活動(活動サポート)②

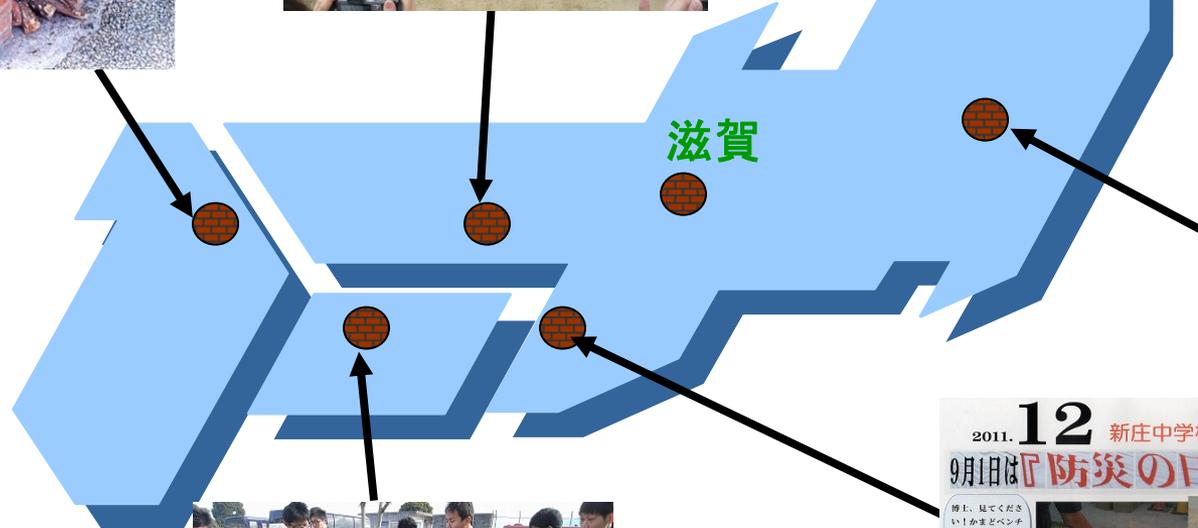
(彦根工業高校把握分)

【神戸市】魚崎小学校FFの会



【福岡県】  
祐誠高校

【宇都宮市】  
宝木中学校PTA



滋賀

【愛媛県】  
東予高校



【和歌山県】  
新庄中学校

2011.12 新庄中学校地震学の取り組み写真②

9月1日は『防災の日』田辺市新庄中学校

皆さん、こんにちは！かまどベンチですよ(△△)かまどとしても、ベンチとしても使えるなんて一石二鳥でありますね！！これからたくさんの人達に使ってもらえることを願っています。

↑↑↑↑↑  
平成 22 年度 3 年生 技術 1 班製作  
～かまどベンチ～

感謝状は、種類作っつけているんじやよー。さすが！学が上手いのおー。この感謝状をたくさんのお手紙が来て、今まで以上に防災について身近に感じてもらえるといいのおー。

新庄中学校はこれからの地域についての学習に取り組んでいます。また、年に1度の新庄中学校の学習の成果を発表する「新庄地研祭」も、発表の場として活動の場として、新庄中学校は「防災の日」

# 全国普及状況

## 県内、県外で普及展開

- ・メール等での情報交換、相談
- ・「活動の手引き」提供
- ・チャレンジプランHP等
- ・現地訪問調査、指導

宇都宮市立宝木  
中学校(PTA活動)



愛媛県立  
東予高校



神戸市立  
魚崎小学校  
(親子活動)



# 活動事例

## 宇都宮市立宝木中学校 PTAの活動記録

創立30周年記念事業  
かまどベンチ作り

どたばた作業日記



宇都宮市立宝木中学校創立30周年記念事業実行委員会

こねては  
→  
運び  
Part. 1

こねては  
←  
運び  
Part. 2

部分からいで  
表面を均し  
メッシュ布を置く。

水車をとり、水を流す。

表面を均す。そして・・・で直あがり。

1日目終了▶

※実地したかった理由  
①おれおれの現場では一気に  
高い山を歩いてどこかのが  
はずれしちゃうとして、  
きっと失敗するに違いない。  
空のウオーを学ぶ機会が  
ひとつしかないので  
どっちにしても一気には  
美味い。

※先ず中継線から山のアライズを  
最終にピント(等身)を撮る  
そのあとにメッシュ布を  
置けば、コンクリートも  
一気に流し込める。

※おれおれの現場では一気に  
高い山を歩いてどこかのが  
はずれしちゃうとして、  
きっと失敗するに違いない。  
空のウオーを学ぶ機会が  
ひとつしかないので  
どっちにしても一気には  
美味い。

※おれおれの現場では一気に  
高い山を歩いてどこかのが  
はずれしちゃうとして、  
きっと失敗するに違いない。  
空のウオーを学ぶ機会が  
ひとつしかないので  
どっちにしても一気には  
美味い。

(4)3日目・・・平成22年8月1日(日) 8:00~12:30

【作業内容】レンガ積み・座面作り・仕上げ

【工程(写真とともに)】 準備:工具・資材した点 準備:失敗した点

前回の成果

同時進行

ミニゴールのベンチ作り  
学校の倉庫のリニューアル

まずは4段目の高さを決める。  
昨日できてしまった高さの違うここを調整した。

高さが決まれば作業開始。  
レンガ積み2日目の人はさすがに要領がいい。

今日も暑いので  
パキッとプラスチックを流す。

今日は中学生も参加。  
生まれてはじめてのレンガ積み。

下野新聞さん  
ともぎテレビさん

テレビと新聞の取材が来た!

最終段で精確なレンガを製作中。  
鉄筋の入るスペースを作る。

ともかく多少の遅延はあったが、ケガもなく  
「(後戻りするの)今日で良かった」という  
前向きな言葉の中、打上げの準備はほとんど。



そして、ついに準備完了。



本日のメニュー  
赤飯  
焼きそば  
らだけうどん  
炭火  
漬物



かまど作りのお話をお互いにねざらなければ「いただきまーす♪」

う…うまいっ!

## 6. かまどベンチ作りを終えて



平成22年夏(猛暑)。

そこには現役保護者がいた。新米OBもベテランOBもいた。先生もいれば、生徒もいた。みんなが麦茶を持ち寄り、焼きそばやキュウリの漬物が差し入れられた。

ときには意見の違いからイライラすることもあった。手際の悪さに声が大きくなることもあった。ときには誰かの冗談で涙が出るほど笑った。声を掛け合って、それぞれのできることを自然に分担した。

そう、とにかく、暑かったし、熱かった。

大人になってから、こんなに大勢で汗を流したことがあったろうか。こんなに真剣になって、ひとつの目標と向かい合ったことが・・・。まるで学生時代の文化祭みたいに。

「かまどベンチ」は宝木中創立30周年記念の寄贈品である。『学校のために、生徒のために、地域のためになるモノ』として製作されるのだが、今思い返せば誰よりも、作った私たちの心の中に大きな熱い思い出を残してくれていたのだ。

また「かまどベンチ」製作は、普段は忘れていた「非常時」を想像させてくれる貴重な機会だった。災害はいつ、どこで起こっても不思議ではない。しかしテレビで災害のニュースを見聞きしても身近なものとして受け止めるのはなかなか難しい。「かまどベンチ」を製作しながら、この宝木地区の「非常時」とは実際どんな状況なのかということをおもひがた考えた。

そして確信したことがある。万が一、そのときが来ても私たちは協力し合える。「かまどベンチ」作りがそれを証明してくれた。

30周年記念事業実行委員会副委員長 大橋恵美 記



# かまどベンチ意見交換会(知事来校)



## 【参加者】

- ・滋賀県知事
- ・地域(自治会)の方
- ・小学校の先生
- ・高校生
- ・学校長
- ・県危機管理局職員
- ・本校教員



「製作活動の感想」  
「防災教育について」  
「地域や学校のつながり」  
「防災政策への発展」



## ～防災の現場を訪ねて～

彦根市南川瀬町 滋賀県立彦根工業高等学校

今回は、彦根市で『かまどベンチづくり』に取り組まれたみなさんと意見交換しました。防災かまどベンチづくりは、彦根工業高等学校都市工学科のみなさんが、内閣府の“2009年度防災教育チャレンジプラン”実践団体として、『防災教育』や『ものづくり教育』とあわせて社会貢献や地域防災力の向上、さらに地域と高校との繋がりを強めていこうと活動されてきました。この活動により同校は、内閣府の防災教育特別賞を受賞されました。

### 【みなさんからいただいた意見等】

#### ○活動してきた高校生から

- ・人に教えることはとても難しいと思ったが、小学生のみんなが指導したことをしっかりと理解してくれてよかった。また、多くの人とふれあえてよかった。
- ・小学生のみんながすごく興味を持ってくれて、日が経っていたのが印象的だった。



#### ○設置した小学校の先生から

- ・初日から、児童たちは高校生たちと融けこんでいた。
- ・お手本をしっかりと見せてくれて、高校生の指導のもと児童たちは興味を持って取り組んでいた。

#### ○設置した地域の方から

- ・昼間に地域にいる子ども達やお年寄りに、防災に対する認識を高めてもらえた。



#### ○取組を通して

- ・いま矢われつつある異年齢の交わりを取り戻すことにもつながるのではないかと考えている。



### 【知事メッセージ】

① 食べること

② 人とひとが交わる

一物多様

③ 備えること

⑤ 地域貢献

④ ものづくり



## 「滋賀県地域減災しくみづくり検討会」への参加



かまどベンチづくり活動を連携協働のツールの一つとして施策検討

### 【検討委員メンバー】

- ・学識経験者
- ・自主防災組織
- ・消防団
- ・社会福祉協議会
- ・企業事業者
- ・NPO (災害支援ボランティアネットワーク)
- ・市町職員
- ・学校 (彦根工業高校)
- ・事務局 (県防災危機管理局)

減災、防災の担い手である住民、企業、団体、学校などの地域の構成員が、防災において果たすべき役割を意識し、連携・協働の下、地域特性を踏まえた減災力、防災力の発揮が求められている。そのための「仕組み」を検討し、「滋賀モデル」とも言える具体的モデルを検討

第1回:平成22年 7月26日  
第2回:平成22年 9月13日  
第3回:平成22年10月25日  
第4回:平成22年12月22日  
第5回:平成23年 2月 2日

「減災協働コミュニティ滋賀モデル推進事業」として展開

# 【かまどベンチづくりの効果・可能性】

かまどベンチづくり

活用した取り組み

備える  
(汎用性のある設備)

- ・被災時に炊き出しに活用する設備
- ・平時はベンチや花壇として、また地域行事(夏祭り等)として活用
- ・工夫により災害を学ぶ設備として活用(ex.かまどベンチに洪水浸水予想ラインを明示)

人が交わる  
(つながり・連帯感の構築)

- ・設置場所が学校や広場、自治会館敷地などで、様々な地域の主体が製作に関わりやすい。
- ・製作を通して人々の絆、連帯感が生まれる。
- ・平時における交流の場、ツールとなる。
- ・地域減災力のベース。非常時の協力体制がスムーズに

意識を高める  
(減災・防災意識)

- ・製作時の会話等を通して地域の非常時をイメージ
- ・製作や炊き出しなどを通して楽しみながら減災・防災意識の高揚が図れる。
- ・製作の目的が明確で、人を集めやすい。取り組みが理解しやすい。

訓練の場

- ・炊き出し訓練はもとより避難訓練、消火訓練等(避難場所に設置されることが多いので、かまどベンチを核とした様々な訓練が可能)
- ・祭りなど平時の使用が非常時の炊き出しの練習に

他の活動との  
組み合わせ

- ・他の減災・防災活動へ組み合わせや追加がしやすい。研修(ex.炊き出し訓練の場における語り部の講話)
- ・災害時要援護者支援の対応

防災教育  
(格好の取り組み)

- ・学校教育(ex.取り組んだ小学校では予想以上の教育効果)
- ・目に見えるモノができることで、わかりやすく人を集めやすい
- ・様々な世代を対象とすることができる。
- ・一般的な教育カリキュラムのように、「減災の必要性、課題、災害対応」など理解が、順を追わなくても自然に理解が深めやすいような設定が可能。

防災以外のこ  
とを学ぶ場

- ・生命の尊さ、地域貢献。ものづくりの喜び、大切さ。ものへの愛着。コミュニケーションや協力の大切さ。
- ・世代間の交流による気付き、学び(ex.高齢者の我慢強さ、勤勉さ、知恵や技術の継承)
- ・福祉とのつながり、生活、環境学習、資源・エネルギー等への拡がり

かまどベンチを製作するという一つの取り組みが副次的な効果を発揮し、減災の担い手を広げる効果を持つ【滋賀県地域減災しくみづくり検討会参考】

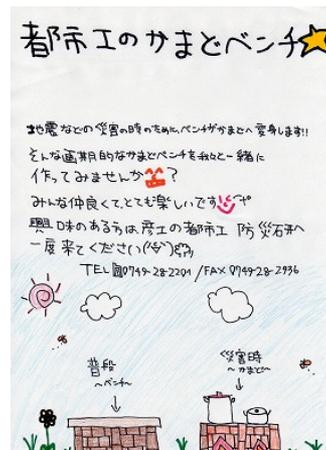
# 今後の計画

①地域等でのかまどベンチ製作を継続(つくり隊募集)

②出前講座(製作指導)の展開(行政との連携)

③かまどベンチの耐久性向上などを追究

④新たなモノ(簡易トイレ等の防災設備)づくりに挑戦



来年度の継続に向けて、学科の活動ではなく、全校生徒へ「かまどベンチつくり隊」参加呼びかけチラシ



最後に

「かまどベンチづくり」は、私たちだけでなく、ご協力いただきました地域や関係者の皆様、委員の皆様方など、「みんなでつくりあげたプラン」です。心から感謝申し上げます。

